

釧路市教育委員会 平成31年第9回3月定例会会議録

1 日時：平成31年3月27日（水）9時30分から11時10分まで

2 会場：釧路市教育委員会室

3 出席者

岡部義孝教育長

（教育委員）

山口隆委員、松尾千穂委員、種村俊仁委員、小出美貴子委員

（事務局）

高玉学校教育部長、川畑生涯学習部長、江縁学校教育部長、  
藤岡総務課長、高木教育施設調整主幹、小野施設計画主幹、  
土江田総括指導主事、坂本青少年育成センター所長、仲谷学校教育課長、  
米田学校給食課長、和田北陽高等学校事務長、澤口生涯学習課長、  
松本オープンカレッジ推進主幹、永井美術館長、工藤スポーツ課長、  
北澤国体推進室長、佐藤博物館長、古賀動物園長  
牧野阿寒生涯学習課長、山田音別生涯学習課長

4 議事録署名人 山口委員、松尾委員

5 傍聴人数 0人

6 提出案件

【公開案件】

議案第36号 釧路市教育委員会事務局処務規則の一部を改正する規則

議案第37号 釧路市教育委員会公印規則の一部を改正する規則

議案第38号 釧路市附属機関に関する条例施行規則の一部を改正する規則

議案第39号 釧路市教育委員会職員安全衛生委員会規則の一部を改正する規則

議案第40号 釧路市学校給食センター管理規則の一部を改正する規則

議案第41号 釧路市学校給食センターに勤務する職員の勤務時間、休暇等に関する規則の一部を改正する規則

議案第42号 釧路市教育委員会事務専決規程の一部を改正する訓令

議案第43号 釧路市教育委員会参事及び主幹等設置規程の一部を改正する訓令

議案第44号 釧路市教育委員会職員定数規程の一部を改正する訓令

議案第45号 釧路市教職員表彰規程の一部を改正する訓令

議案第46号 釧路市立学校等の幼児、児童及び生徒の災害共済給付に係る共済掛金徴収に関する規則の一部を改正する規則

議案第47号 消費税率及び地方消費税率の引上げに伴う関係規則の整備に関する規則

議案第48号 釧路市立小学校及び中学校のスポーツ開放に関する規則の一部を改正する規則

## 報告事項

- (1) 平成31年第2回釧路市議会2月定例会の議決結果について
- (2) 平成31年第2回釧路市議会2月定例会の審議内容について
- (3) 平成31年度釧路市立小中学校教職員人事異動について
- (4) 釧路市民球場における広告事業の拡大について
- (5) 学校の現状について

## 7 会議内容

### 【公開案件】

- 議案第36号 釧路市教育委員会事務局処務規則の一部を改正する規則
- 議案第37号 釧路市教育委員会公印規則の一部を改正する規則
- 議案第38号 釧路市附属機関に関する条例施行規則の一部を改正する規則
- 議案第39号 釧路市教育委員会職員安全衛生委員会規則の一部を改正する規則
- 議案第40号 釧路市学校給食センター管理規則の一部を改正する規則
- 議案第41号 釧路市学校給食センターに勤務する職員の勤務時間、休暇等に関する規則の一部を改正する規則
- 議案第42号 釧路市教育委員会事務専決規程の一部を改正する訓令
- 議案第43号 釧路市教育委員会参事及び主幹等設置規程の一部を改正する訓令
- 議案第44号 釧路市教育委員会職員定数規程の一部を改正する訓令

(藤岡総務課長)

議案第36号から44号までについて、一括して説明する。

はじめに、31年度に向けた組織機構、定数の見直しにおいては、「学校給食課、国体推進室の廃止」、「課の廃止に伴い、給食担当を総務課へ移行」、「教育施設調整主幹を学校教育課に移行し、主幹名を教育調整主幹」、「給食担当主幹の設置」「オープンカレッジ推進主幹の廃止」を行い、教育委員会事務局は職員定数を18人減の合計129人とする。

これらに係る教育委員会の関係規則を今後、総務部総務課行政担当との調整のうえ、改正となることをご了承のうえ、審議をお願い申し上げます。

議案第36号、処務規則の改正では、学校給食課、国体推進室の廃止等、組織の改編に伴うものである。

議案第37号、公印規則の改正では、学校給食課の廃止に伴う学校給食課長之印を削除するものである。

議案第38号、釧路市附属機関に関する条例施行規則の改正では、学校給食審議会の主管課を総務課に変更するものである。

議案第39号、安全衛生委員会規則の改正では、委員の構成メンバーの中で、学校給食課長を削除し、教育支援課長を追加するものである。

議案第40号、学校給食センター管理規則の改正では、センター配置職員の中で技術職員を削除するものである。

議案第41号、学校給食センターに勤務する職員の勤務時間、休暇等に関する規則の改正では、学校給食課の廃止に伴う組織の改編に伴うものである。

議案第42号、事務専決規程の改正では、学校給食課、国体推進室の廃止等、組織の改編に伴うものである。

議案第43号、釧路市教育委員会参事及び主幹等設置規程の改正では、教育施設調整主幹、

オープンカレッジ推進主幹の廃止、給食担当主幹、教育調整主幹の設置に伴うものである。

議案第44号、教育委員会職員定数規程については、学校教育部で65人から54人、生涯学習部で82人から75人へと変更する改正である。

◎特に意見はなく、本議案は、原案のとおり承認された。

**【公開案件】**

議案第45号 釧路市教職員表彰規程の一部を改正する訓令

(仲谷学校教育課長)

釧路市教職員表彰規程第6条の規定において、20年以上勤務し、退職する者に対して退職辞令の交付の際に、釧路市教育委員会から感謝状及び記念品を贈呈していた。

しかし、北海道教育委員会では勤続30年時以外は感謝状を渡しておらず、また、釧路管内、他町村教育委員会でも実施していないことから、今回感謝状を廃止するものである。このことにより、感謝状に係る条項及び文言を削除するとともに、条項の繰り上げ等規定の整理を行うものである。

なお、改正については、総務部総務課と最終調整が終了していないので、今後修正があることがあり得ることを、ご了承願いたい。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(岡部教育長)

今年度の退職者については該当すると言うことでよいか。

(仲谷学校教育課長)

今年度についても財政課より自粛をしてほしいと言われているので贈呈しない。

(岡部教育長)

この改正規定は、31年4月1日から施行するのにそれはおかしいと思う。調整が必要である。

(山口委員)

もし、今年度末で退職される方で、この規定に該当して感謝状、記念品を渡さなければならぬ該当者は何人くらい居るか。

(仲谷学校教育課長)

管理職等が9人で、その他の方も含めると20人程度いる。

(山口委員)

記念品は今まで何を渡していたのか。

(仲谷学校教育課長)

木のお盆等を渡している。

【公開案件】

議案第46号 釧路市立学校等の幼児、児童及び生徒の災害共済給付に係る共済掛金徴収に関する規則の一部を改正する規則

(和田北陽高等学校事務長)

独立行政法人日本スポーツ振興センター法及び同法施行令に基づく災害共済給付に係る共済掛金の額の改正に伴い、北海道においては道立高等学校の生徒に係る共済掛金を改正することから、本市においても同様に改正するものである。

改正内容については、高等学校の生徒に係る共済掛金の額を、1人当たり年額「1,650円」から「1,930円」に増額するものである。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(岡部教育長)

高校だけ金額が上がった背景や理由は把握しているか。

(和田北陽高等学校事務長)

理由は把握できていないが、31年度から生徒数の減少に伴う収支の均衡の関係や、死亡や障がいに関する給付の額を改善するということも趣旨になっている。

【公開案件】

議案第47号 消費税率及び地方消費税率の引上げに伴う関係規則の整備に関する規則

(澤口生涯学習課長)

2019年10月1日より消費税率が8%から10%に引上げられることに伴い、先の2月定例教育委員会において、各施設の使用料、入館料、観覧料等の引上げに関わる条例改正について、ご審議をいただいたが、本規則案については附属設備の使用料が規則において規定されている教育委員会所管の3施設について、消費税の引上げ分を転嫁するため改正を行うものである。

なお、今回の規則改正については、消費税率10%への引上げを反映させる金額改定のみであることから、個々の施設の料金改定の詳細については説明を割愛させていただく。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)

あくまでも消費税が10%になったときには、この規則が生きてくると思うが、もし万が一いろいろな情勢により、10月に増税を予定していたのが8%止まりとなった場合、従来

の規則がそのまま残るという事か。

(岡部教育長)

この規則上は、そうはならないと思う。従って8%のままということであれば、もう一度規則を一部改正しなければならない。そうなった場合は、釧路市として大きな方針を出すと思う。

#### 【公開案件】

議案第48号 釧路市立小学校及び中学校のスポーツ開放に関する規則の一部を改正する規則

(工藤スポーツ課長)

釧路地区の全小学校下に組織されている「地域スポーツ推進協議会」は、地域スポーツ活動の充実を図るための中心的な役割を果たす団体である。「地域スポーツ推進協議会」のスポーツ開放の利用については、昨年から「総合型地域スポーツクラブ」と同様に、管理指導員を置かない自主管理方式に移行し、試験的にスポーツ開放を行ってきたが、一年間を通じて問題なくスポーツ開放を実施できていることから、この度、規則の一部を改正するものである。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(松尾委員)

今まで一年間、管理指導員なしでやってきたということで、これからも管理指導員なしでこのままやっていくということでよいか。今まで一年間でどのくらいの件数を学校で「地域スポーツ推進協議会」としてやっているのか。例えば、1週間に1回の地域開放など、そのくらいの限度でやるということか。

(工藤スポーツ課長)

今年度は全体で570回、金額で940,800円自主管理方式になったことにより、削減された。

(松尾委員)

570回という事は、学校開放している学校全校ということだと思うが、団体開放以外の地域開放の部分で管理指導員なしで行うということによいか。

(工藤スポーツ課長)

そのとおりである。

(松尾委員)

週1回程度とっていたが、それ以上に使用している。団体開放には影響はないのか。

(工藤スポーツ課長)

今までの枠組みは変えておらず、空いているところを使用している。「地域スポーツ推進協

議会」に鍵を渡し、使用する方に開けてもらっている。

(松尾委員)

利用人数を次回でいいので知らせてほしい。

#### 【公開案件】報告事項

(1) 平成31年第2回釧路市議会2月定例会の議決結果について

(2) 平成31年第2回釧路市議会2月定例会の審議内容について

(藤岡総務課長)

先の2月定例会教育委員会等において議案として審議、承認いただいた教育委員会に関わる新年度予算案、条例改正案、平成30年度補正予算案の議案について、記載のとおり、釧路市議会2月定例会において、全て原案どおり可決された。

また、釧路市報告第2号の「専決処分報告の件」について、報告が完了していることを報告する。

引き続き、審議内容については、それぞれ学校教育部長、生涯学習部長より報告する。

(高玉学校教育部長)

私からは、平成31年第2回釧路市議会2月定例会、学校教育部に関わる代表質問及び一般質問の概略を説明する。

自民クラブ 続木敏博議員より、コンピューター導入整備事業のタブレット型ノートパソコンについて、配置方法や使用方法などの質問があり、教育長より、配置方法については児童生徒数の割合に応じて行う。また使用方法としては、撮影機能を活用した「主体的、対話的で深い学び」に結びつく学習活動を行う事ができ、授業改善が推進されることを期待している旨お答えした。

また、給食センター改築についての質問があり、教育長より、これまで庁内検討会議にて、センター方式を前提として、提供範囲を含む様々なパターン毎にコスト面を含め比較・検証を行ってきた。建設地の検討については、土地の広さばかりではなく、インフラの整備状況、周辺環境、津波による浸水想定など、さまざまな条件で検討しており、その中で、阿寒、音別地区についても衛生面、効率性などの観点から1センターでの提供を方向性の1つとしている。早期の改築整備に向け、検討を深めていくと共に安心、安全な給食を提供し続けられるよう、現在の施設の維持管理に万全を期していく旨お答えした。

なお、給食センター改築については、市民連合議員団 酒巻勝美議員、日本共産党議員団 松永俊雄議員、新創クラブ 森豊議員 の代表質問、日本共産党議員団 村上和繁議員の一般質問でも質問があり、それぞれ同様にお答えしている。

次に、児童虐待問題に関して、学校や市教委の対応、情報共有のあり方についての質問があり、教育長より、スクールソーシャルワーカーおよび指導主事を窓口、関係各課および外部機関との連携により対応にあたっている旨お答えした。

同様の質問で、共産党議員団工藤正志議員より、児童虐待・いじめ問題に関する質問、市民連合議員団 宮田団議員より、子どもへのすべての暴力をなくす取組に関する質問があり、同様の回答をしている。

次に、子どもたちの将来に役立つ力、生き抜く力について質問があり、教育長より、主体的に物事を判断する力や、柔軟に物事を捉え自らの力を発揮できるよう、その基礎となる確かな学力の定着が必要である旨お答えした。

市民連合議員団 酒巻勝美議員より、教育に求められる課題に対して、どのように教育現場で実践し、生き抜く力を育てていくかの質問があり、教育長より、主体的に物事を判断し行動に移す力を身に付けさせることができるよう、さまざまな施策を各学校の教育課程に反映させながら、教育委員会を先頭に学校・家庭・地域が一体となり取り組んでいきたい旨お答えした。

次に学校施設長寿命化計画に係る、計画期間と策定スケジュールについて質問があり、教育長より、今後40年を見通した方向性を明らかにするもので、2カ年で策定する予定である旨お答えした。

日本共産党議員団 松永俊雄議員より、教員の働き方改革に関して、教員の勤務時間について質問があり、教育長より、引き続き勤務実態の把握に努め、働き方改革のガイドラインを策定する中で、具体的な取組を進めていきたい旨お答えした。

なお、市政進クラブ 松永証明議員の代表質問で、部活動における休養日について質問があり、教育長より、新年度に策定する「市立学校における部活動の方針」で適切な運営体制を整えていきたい旨、また、日本共産党議員団 梅津則行議員の一般質問より、複数校勤務について質問があり、私より、北海道教育委員会と調整を図りながら適切な配置に努めている旨お答えした。

次に、特別支援学級の教室環境について質問があり、教育長より、これまでも個々のニーズに応じた指導体制や環境整備は努めてきており、引き続き対応してまいりたい旨お答えした。

市政進クラブ 松永証明議員より、基礎学力習得保障教育推進条例についての取組について質問があり、教育長より、釧路市標準学力検査の実施、個別復習教材によるフォローアップ、ALTの増員を新年度に行うなどの取組についてお答えした。

公明党議員団 月田光明議員より、ふるさとキャリア教育に関して質問があり、教育長より、地元若手経済人でバリエーションに富んだ職種があり、保護者世代でもあるJCとの連携のもと、中学生向けの職業講座の開催等を予定しており、今後この取組を足掛かりとし、市民や地域の関係団体を巻き込んだキャリア教育の推進を図っていきたい旨お答えした。また、新創クラブ 森豊議員の代表質問においても質問があり、同様の回答をしている。

次に、学力向上対策についての質問があり、教育長より、効果的な授業改善に取り組んでいる実践内容の周知や、研修の機会を増やすなどの取組を強化していく旨お答えした。

次に、公立夜間中学の開設についての質問があり、教育長より、必要性は十分に認識しており、詳細なニーズの把握など検討を深めていきたい旨お答えした。



新創クラブ 森豊議員より、教育のあり方として、子どもたちに対し大人がすべき事に関する質問があり、教育長より、地域との協働など、基礎学力の定着に向け取組を強めてまいりたい旨お答えした。

市民連合議員団 岡田遼議員より、北陽高校について、今後の方向性や取組、単位制への移行に関する質問があり、私より、多様な選択科目を開設する事により、それぞれの進路希望に応じて生徒自身が科目を選択できるとともに、加配教職員の複数配置によるきめ細やかな学習指導が可能となる「進路多様型」の単位制へ2022年に移行することを決定し、将来の方向選択に不安を与えないよう、丁寧に説明して行きたい旨お答えした。また、教育長より、より特色を持ち、時代の要請に応え得る学校づくりが地域に選ばれる学校づくりにつながる。スムーズな単位制への移行に向け努力していきたい旨お答えした。

新創クラブ 大越拓也議員より、ファースト・ステップ・プログラムについて、成果と課題、関係部署との情報共有などの質問があり、私より、次へのステップへの第一歩を踏み出せる生徒が増えてきている事が成果であり、いかに次へのステップへスムーズにつなげていけるかが課題である。また、こども保健部や福祉部などの関係部署との連携を密にとり、遺漏の無いよう対応していきたい旨お答えした。

なお、日本共産党議員団 梅津則行議員の一般質問より、不登校・ファースト・ステップ・プログラムの関係部署との情報共有について質問があり、同様の回答をしている。

市民連合議員団 松尾和仁議員より、小中学校への携帯電話・スマートフォンの持ち込みについて、所持および持ち込みの実態に関する質問があり、私より、28年度の調査で小学生で36.1%、中学生で60.4%の所持となっており、平成21年に出了れた文科省からの通知に基づき、小中共に原則禁止としている。持病などの健康上の事情により緊急に保護者と連絡を取らなければならない場合などは例外を認めている。持ち込む際の課題として、紛失や破損のリスク、学校内での保管方法、家庭の事情により所持できない児童生徒への配慮といった課題があり、北海道や文科省の動向に注視していきたい旨お答えした。

自民クラブ 戸田悟議員より、特別支援学校の施策について質問があり、教育長より、教育委員会の責務として、児童や保護者のニーズに沿った対応となるよう、新たに医療的ケアの事業をスタートさせるにあたり万全を期してまいりたい旨お答えした。

ここまでの、本会議の概略である。

次に、総務文教常任委員会 市長総括について説明する。

日本共産党議員団 村上和繁議員より、いじめアンケートの自由記述欄について項目を増やしたり別紙を添えたりできないか質問があり、教育長より、道教委の「いじめ問題対策連絡協議会」において、アンケート用紙に自由記述欄を設けるよう意見があり、道教委で内部検討に入っていると聞いていることから、これらの動向を注視するとともに、北海道都市教育長会などを通じて伝えていきたい、また別紙については記載時に個人が特定され易くなるなど、適当ではない現状でも十分に活用している旨お答えした。

(川畑生涯学習部長)

私からは、生涯学習部に関わる代表質問及び一般質問の概略を説明する。

自民クラブ 続木敏博議員より、子ども遊学館プラネタリウムの整備について質問があり、教育長より、最大の集客設備であるプラネタリウムの更新であり、できるだけ早期に更新を行うこと、また、これまで以上に魅力ある内容のプログラムを展開して、集客増につなげていきたい旨お答えした。

次に、釧路市中央図書館及び釧路文学館の利用状況について質問があり、教育長より、学習室の利用人数が10倍以上に増加していることが、中央図書館の利用者増の主な要因となっており、引き続き利用しやすい図書館づくりに努めていくこと、また、文学館についても、釧路文学の拠点施設として、文学館の役割である釧路ゆかりの文学にかかる資料の収集・保存・展示に努めていく旨お答えした。

次に、旧図書館の今後の利用について質問があり、教育長より、旧図書館の跡利用については、現段階では白紙である旨お答えした。

次に、スポーツ合宿誘致に係るホストタウンの取組状況について質問があり、教育長より、本年4月を目途にベトナムと事前合宿に係る基本合意書を締結する予定であり、これらの対応をしっかりと取り組むことで、ベトナムとの次なる交流につなげていきたい旨お答えした。

市民連合議員団 酒巻勝美議員より、日本製紙クレインズの今後について質問があり、市長より、クレインズは「氷都くしろ」のシンボルであり、チームを存続させる方策を市民と一体となって考えていきたい旨お答えした。

日本共産党議員団 松永俊雄議員より、釧路市中央図書館の資料整備及び釧路文学館の運営について質問があり、教育長より、中央図書館の資料整備については、開架書庫分を中心としながら計画的な蔵書の整備に努めていくこと、また、文学館の運営については、釧路文学館アドバイザー委員会などのご意見を伺いながら、魅力ある文学館づくりを目指していく旨お答えした。

次に、全国高校生短歌大会への市内高校生の参加について質問があり、教育長より、盛岡市で開催されている短歌大会の市内高校生への情報提供について、文学館を通じて行っていく旨お答えした。

市政進クラブ 松永征明議員より、阿寒町総合運動公園の指定管理者制度導入に係る評価について質問があり、教育長より、魅力ある事業の企画立案や適切な施設の維持管理に努められ、合宿を行った日本大学サッカー部の選手がコンサドーレ札幌と契約するなど、阿寒地域のスポーツ振興に効果をもたらした指定管理者の事業運営を高く評価している旨お答えした。

次に、阿寒町スポーツセンターへの多目的トイレ設置について質問があり、教育長より、スペース確保などの課題があり、当面は隣接する阿寒町行政センター及びデイサービスセンターの多目的トイレを使用いただく旨お答えした。

次に、阿寒町公民館への指定管理者制度導入について質問があり、教育長より、施設の設置目的や機能、実態を踏まえ、利用者サービスの向上を総合的に勘案し、導入の可否を検討していきたい旨お答えした。

公明党議員団 月田光明議員より、釧路市民文化会館の移転改築について質問があり、市長より、現段階では施設規模をはじめ、具体の検討には至っていない、「釧路都心部まちづくり計画基本構想編」や、来年度から策定に着手する「事業構想編」などを踏まえて検討を進めていく旨お答えした。また、教育長からも、釧路・根室圏域における中核施設としての位置付けの要否などを含め、文化団体や利用者の意見を反映した施設のあり方を検討する必要がある旨お答えした。

次に、釧路湿原美術館に展示されている故佐々木榮松氏の作品に対する評価について質問があり、市長及び教育長より、釧路湿原を題材とした心象作品を多く手がけ、全国にたくさんファンを持つ画家であり、市の各種記念事業等にも協力をいただき、釧路の美術史に名を残す一人であると認識している旨お答えした。

次に、釧路湿原美術館運営の将来的なあり方について質問があり、教育長より、美術館が設置された趣旨から、今後もこれまでと同様の形で運営されることが望ましく、美術館存続に向け法人の中で検討をいただきたい旨お答えした。

新創クラブ 森豊議員より、ベトナムを相手国としたホストタウンの取組状況について質問があり、教育長より、現在予定している事前合宿の受け入れに取り組むことが重要であり、そのことが信頼をより強固にし、ベトナムとの継続的な交流につながっていくと考えている旨お答えした。

次に、釧路市中央図書館への「サピエ」システムの導入について質問があり、教育長より、当市では川北町の点字図書館に既に導入されているが、道内の公立図書館8か所でも導入実績があることから、これらの利用状況等を把握したい旨お答えした。

公明党議員団 河合初恵議員より、「くしろ20歳のつどい」と「三十路式」の連携した取組について質問があり、私より、「20歳のつどい」は地域社会の中で主体的に考え行動できる大人として仲間入りする新成人を祝う教育活動の一環であり、市民団体などが中心となり自主的に開催されている「三十路式」とは趣旨が異なるものと考えている旨お答えした。

新創クラブ 大越拓也議員より、「子ども文化祭」の開催について質問があり、私より、「子ども文化祭」は子どもたちが地域との関わりを深め、自己肯定力を養う取組であると認識しており、子どもたちの発表の場を求める団体の代表者などから具体の申し出があった段階で相談していきたい旨、お答えした。

市民連合議員団 松尾和仁議員より日本製紙クレインズの廃部について質問があり、市長より、「氷都くしろ」のシンボルであるクレインズの存続を願う思いは市民と一緒にあり、70年にわたり地域に存在してきた意義は大きいことから、チームを存続させる方策を市民・地域の方々と一体となって考えていく旨お答えした。また、私より、日本製紙とのネーミングライツ契約に関して、契約変更の相談があれば協議をしていく旨お答えした。

日本共産党議員団 梅津則行議員より、釧路市中央図書館の資料整備について質問があり、私より、中央図書館開館後、一定の貸し出しの伸びは出てきており、伸びしろがある段階であることから、今後も臨時費等必要な予算を措置し、市民ニーズに応えた蔵書整備を計画的に進めていきたい旨お答えした。

ここまでが、本会議の概略である。

次に総務文教常任委員会 市長総括について説明する。

日本共産党議員団 村上和繁議員より、釧路市立博物館、釧路市丹頂鶴自然公園及び釧路市阿寒国際ツルセンターにおける、市内小・中学生の入館料等の無料化について質問があり、教育長より、施設の維持管理費は入館料等と市税で賄われており、無料化の範囲を拡大することは施設利用者以外の方の負担が増加することにつながることから、市民合意を得られるか慎重に見極める必要があり、持続可能な施設のあり方を考えると、現段階で施設の入館料等を無料化することは難しいと考えている旨お答えした。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)

給食センターの改築に係る質問の中で、全市一施設での音別、阿寒も含め配送できないのかという考え方もある。しかし、阿寒、音別の地域性を考えたときに、分けざるを得ないという考え方もある。例えば、阿寒は阿寒湖畔と本庁で一つ施設を持って配送する等の考え方があると思うが、音別は音別地区の子どもたちの数を考えて、もしセンターを分けて設けたとしたら音別に一つ必要なのか。地域の理解も必要であるが、例えば白糠町の子ども数も減っているので、白糠町の給食センターから配送してもらおう等、将来的には検討の余地があるのか。

(高木教育施設調整主幹)

白糠、音別地区について白糠町の給食センターの利用について、今回の総務文教常任委員会でも同様の質問があり、部長より、白糠町の給食センターの状況については、最近建ったということではなく、将来の改築もあるということも含めて検討していきたい旨お答えしている。

#### 【公開案件】 報告事項

##### (3) 平成31年度釧路市立小中学校教職員人事異動について

(仲谷学校教育課長)

平成31年度の教職員人事異動について、25日(月)、26日(火)に新聞報道も行われたが、その異動状況について報告する。

まず、管理職については、平成30年度末の管理職退職者数は、校長が7名、教頭が2名である。

異動については、市内異動・管内異動及び他管内異動をあわせて37名であり、校長への昇任が9名そのうち管内への異動者は3名、教頭への昇任が3名、主幹教諭への昇任が1名となっている。

次に、一般教員について、平成30年度末の退職者数は31名であり、異動については、

市内異動・管内異動・他管内異動をあわせて147名である。このうち、同一校における長年勤務者の解消については、今回は10年以上での異動が4名、9年では8名の異動により長年勤務者の解消を図っている。養護教諭、事務職員、栄養教諭の異動については、退職者が6名、異動者が20名である。

平成31年度の新採用者数は、教諭では、小学校16校に27名、中学校10校に17名、事務職員、養護教諭、栄養教諭それぞれ1名ずつおり、計47名の配置となっている。本年度より17名多い状況となっている。なお、再任用職員は小中学校含めて52名となっており、そのうち4名を管内の町村から受け入れている。

今後の課題としては、定年退職者の補填と期限付教諭の解消のために、再任用職員や新採用教員の配置が今後更に増加することが想定されることから、管内からの力量ある正規教諭の配置を引き続き道教委に要請するとともに、釧路市立学校においても人事異動実施要項にある基準勤務年数に到達した者については、各学校の校内体制に配慮しつつも迅速に異動させる状況を作ってもらうことにより広域的な人事が円滑に進められるよう、より一層指導をしてみたい。

また、特別支援学級においては、特別支援学校との人事交流や特別支援学校教諭免許状の積極的な取得などにより、専門的知識を有する教員の育成に努めるとともに、基礎学力の定着・向上を図るため、学力に課題のある学校への指導力のある中堅教員の配置に配慮し、組織的な教育活動を進められる学校づくりを意識した人事を促進したいと考えている。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)

長年勤務者の解消を図った成果の報告があったが、まだ課題として残っている異動時期ではあるが異動できなかった人数の把握はできているのか。

(仲谷学校教育課長)

把握はしている。特に中学校の体育など芸能教科がなかなか異動できない状況があり、一番長い方で13年同じ学校に勤務されている方もいる。

(山口議員)

再任用52名とあるが、昨年、一昨年と管理職で退職されて再任用に応募する方もいると思うが、52名のうち何名採用されたか。管内からの4名は管理職で退職か一般で退職して再任用されたか教えてほしい。

(仲谷学校教育課長)

詳しいデータを持ち合わせていないが、管内の4名は2名が管理職で退職している。

#### 【公開案件】報告事項

(4) 釧路市民球場における広告事業の拡大について

(工藤スポーツ課長)

これまで釧路市では、市の資産を広告媒体として有効に活用し、民間企業等の広告を掲載することにより新たな財源の確保に努めており、釧路市民球場においても平成29年度では14枠、平成30年度には6枠の募集を行い、現在20枠の広告を掲載しているところである。平成31年8月27日(火)、28日(水)には、27年ぶりとなるプロ野球2連戦が予定されており、これまで以上に広告効果が期待されることから、空きスペースを利用した3度目となる6枠の広告募集を行ったところである。

結果については、6枠の募集に対して11社からの応募があり、提案金額の上位6社が広告主として決定したところであり、広告掲載料として、上位6社の合計が190万円となったところである。

今後とも広告主に満足いただけるような各種大会の誘致に努めたいと考えている。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(岡部教育長)

既存枠とプラスしてトータルでの広告収入はいくらか。

(工藤スポーツ課長)

既存枠20枠で2年目以降のため、1枠10万円のため200万円。プラス今回の提案で190万円のため390万円。平成31年度の収入としては390万円である。

(山口委員)

6枠で190万円ということは、平均すると1社30万円位なのか。最初から10万円で権利を取ったほうが、安価で広告できているということになる。

(工藤スポーツ課長)

年々、金額が高騰している。

(山口委員)

6枠募集して、11社応募してくれたということはいいことだと思う。

(工藤スポーツ課長)

大変好評であり、2年目の平成30年に落選されたところが再度皆さん応募してくれている。

(松尾委員)

縦40センチは短い感じがする。フェンスの上では観客が見えなくなるが、フェンス自体には掛けないのか。

(工藤スポーツ課長)

ラバーフェンスという緑のクッションに書くようにしている。その上は金網であり、そこに書くと観客の観戦の邪魔になる。緑のラバーフェンスの空いているところを工夫してやっている。

(松尾委員)

公告を出す側にしてみると、40センチは遠くで見ると字が大きく見えないのではないかと。  
(工藤スポーツ課長)

テレビ放映の時には、ベンチは結構テレビに映るため小さくても効果はある。  
(松尾委員)

テレビ画面ではそうかもしれないが、外野席から見た時や観客が見た時は小さくないのか。  
(工藤スポーツ課長)

昨日の位置決定会議では一番目、二番目に高いところは皆さんテレビに映る小さいところであった。

#### 【公開案件】報告事項

##### (5) 学校の現状について

(土江田総括指導主事)

初めに、教育研究センター専門委員会の活動について報告する。

2月23日(土)、今年度2回目の合同研究専門委員会を開催し、今年度の活動報告と懇親会を行った。それぞれの5つの専門委員会の活動内容については、学習指導は9年間を見通したキャリアノートの作成について、生徒指導は児童生徒理解を基盤とした生徒指導の在り方について、教育工学は小中学校9年間を通した効果的なプログラミング教育を進めるための実践事例集の作成、郷土読本は新学習指導要領を踏まえた小学校3・4年で使用する教材の部分改訂、特別支援はユニバーサルデザインを意識した手立てを通常の学級内で活用していく方法について研究紀要の作成に取り組んだ。所員、専門委員の先生方には、自校での指導や業務等でお忙しい中、全市的な調査研究に取り組んでいただいております、大変、中身の濃い調査研究となっている。

近年、各専門委員会の活動が教育委員会の教育施策、特別支援教育の充実や学校間の円滑な接続等と直結した活動内容になっており、精鋭ぞろいの先生方に実践的な研究を進めていただき、助けられている。

なお、今年度は、教育工学専門委員会と特別支援専門委員会が2か年の研究の成果をまとめ、研究紀要として発行する。

次に第61回教育実践レポートについて報告する。

「教育実践レポート」の募集は、市内の各学校における教育実践を奨励するとともに、その実践内容を広く紹介し、教育活動の参考にすることを目的としたものである。個人の実践レポートの応募が少なくなり、平成22年度より、教育委員会の研究指定校の応募を必須とする形として継続してきたが、学校の組織的な実践と個人の実践を評価することの難しさが指摘され、さらに、協賛金の課題もあることから、今年度より個人またはグループ研究のみの応募の上、審査・表彰を行わない形で行ったところ、2点のレポートの応募があった。

応募いただいた先生方のレポートは、釧路市ホームページにアップするとともに「釧路市の教育」に掲載し、全ての先生方にお届けし、学校や個人の研究活動に役立てていただくこ

ととしている。

最後に、学校の現状について報告する。

各学校では、22日（金）に修了式が行われ、今年度のまとめや残務整理と並行して、引継など新年度へ向けての準備が始まり、慌ただしい毎日を送っている。子どもたちについては、これまで春休みはのんびりできる休みの一つだったが、先日の校長会議にて、フォローアップシートやチャレンジテストを活用した春休みの宿題を依頼した。

また、新年度、始業式は小中学校ともに4月5日（金）、入学式は小学校が5日（金）、中学校が6日（土）となっている。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

（山口委員）

郷土読本の今回の部分改定について、今後の郷土読本の作成に関わって今までの状況と、これからの私の思いを話させてほしい。博物館の学芸員、埋蔵文化センターの学芸員の方々の専門分野のノウハウは非常にレベルが高いと思っている。釧路の歴史や文化に対する造形については博物館、埋蔵文化センターの学芸員の方々のノウハウを使わない手はないのではないかと思うが、今まではどうであったか。そのような関わりがないのであれば、今後ぜひ連携を取りながら、郷土読本を読むことによって釧路で生まれ育っていることに誇りを持つような魅力のあるものを作ってもらえたら、もっともっと色々な部分での利活用が広がるのではないか。博物館、埋蔵文化センターのみならず、色々なところの学芸員の方のノウハウをどんどん使ったほうが良いのではないか。

次に、第61回教育実践レポートについての話があって、長い間関わって現場でも色々応募してきた者にとっては、だんだん縮小してきていて、少し寂しい。最近「学校の当たり前をなくす」という本を読んで、今までずっとやってきたので、何が何でも守らなければならないという発想はどうなのか、という視点の内容が含まれているので、あまり意味がなければなくなってもよいのか、ただ寂しいなという気がした。その中で、協賛金の問題等、財政的な問題があると思う。無理かもしれないが、例えば、ここで1等賞を取ったら、秋田県大館市に派遣して勉強させてあげるなど、そのような事をするのは難しいのか。

（土江田総括指導主事）

郷土読本に関して、これまでも学芸員さんの力を色々な形で活用して、協力させていただいている。来年度小学校の教科書が全面改定になるので、それらの内容を踏まえて、郷土読本も次年度全面改定になる予定である。本当にたくさんの方々の協力を得てやっていかなければならないので、これまで以上にさまざまな力を活用して郷土読本を新たに作っていくことになる。

教育実践レポートに関して、ご指摘のとおりであるが、個人の研究をしている先生方の提出が少なくなってきたのが現状である。協賛金はお金をいただいているところが、苦しくなってきたり、これまでのように賞や盾が付くというのはなかなか難しくなってきたり



る。成果としてどこかに、学習に行っていたかという事ができるかどうかは内部で検討してみなければならない。財政的には難しい部分がある。

(山口委員)

発想の転換で、盾とか賞状はあまり意味がないのではと思っている。やっぱり実利がある部分で魅力ある物をプレゼントするというほうが、良いのではないかと思う。

(小出委員)

春休みにおける家庭学習で中学生の課題をやっていると思うが、春休み明けすぐに学力テストがあり、1年間の復習の課題と学力テストに向けた過去問やフォローアップシートのようなものは宿題として出しているのか。

(土江田総括指導主事)

学力テストは業者のテストなので、過去の問題をコピーして渡すことはできないが、問題として教科の先生の方で、このような系統の問題が出ていたということは、似たような問題で宿題にすることは可能だと思う。これらのことでフォローアップシートやチャレンジテスト以外でも先生方で工夫して宿題を出していると思う。

(小出委員)

春休みは時間がなくて、宿題を計画的に勉強して春休み明けに学力テストを行えば点数が取れそうな気がするが、どうだろうか。春休み明けや夏休み明けすぐの学力テストは点数が取れているなどあるか。

(土江田総括指導主事)

長期休業中に次のテストを見据えて計画的に学力テストの範囲を勉強してくる子どもたちは成果が出ている。それに向けて、どちらかと言えば中学校はこれまで家庭学習に関しては自分で勉強しなさいというスタンスだったが、なかなかそれでは取り組めない子どもたちが多く出てきているので、宿題を課して夏休み明けのテストに向けて計画的に勉強してきなさい、というように言葉は悪いが強制的にやらせている。当然、やればやるほど力になっている。

(小出委員)

宿題を課してからは点数が上がっているのか。

(土江田総括指導主事)

本人の一生懸命具合も関係するが、ただやるだけではだめなので、そこが難しいところだが、先生方がただ宿題あるからやってきなさい、というだけではなく、いかにこのテストが大事で、そのためにこの春休み、夏休みがどうやって自分がこの長期休業中にこれまで復習しなければならないのか、意図をしっかりと伝えながら子どもたちに出して、現在工夫してやっているが、そこをしっかりと子どもたちに落とすところが一番大事だと思っている。

(山口委員)

釧路市独自の学力テストを12月にやって、課題等を明らかにして3学期中にできるだけ課題を解決して、進級に向けての準備をする。やはり3学期は期間が短いので、そこだけでは完結できない残された全体として欠落している部分に共通の宿題を与える。個々の課題に

については先生のほうからフォローアップシートを使って、あなたはこれに力を入れなければならない、という課題は各学校で個々の子どもに対しては示されているということで良いか。

(土江田総括指導主事)

3学期どちらかというまとめに入っている部分もあるので、そのまとめの時間を使いながら授業の中でも活用していると思うが、場合によっては宿題に出して春休み中にフォローアップシートを使っている学校もある。どちらかという、春休み中は長期休業中のチャレンジテストを必ずやってきなさいというのが多いと思う。

(種村委員)

教育工学について、プログラミング教育が2020年小学校に教科化されると思うが、学校で実際に実験的に既にやっている学校があると聞いたが、具体的にどのような形でやっているのか。

(土江田総括指導主事)

教育工学が中心となって先生方がまず、どのように教えているのかというところを、先生方が見られるように、年間に2校か3校くらいで研究講座のような形で行って先生方が入っていただいて、または工業高等専門学校でやるなど、色々なところに力を借りながら、こんな形で授業が組み込んでいける、というあたりを実際先生方に見てもらって、授業が終わった後、先生たちは実際スクラッチを使ってやっているが、自分でも触ってみてという研修講座を何回か行って、来年度に関しては年間指導計画の中でどこの教科でどのように入れていくのかを1年かけて作成していく形で準備している。

(種村委員)

教科化されるので、評価点もつくようになるのか。

(土江田総括指導主事)

プログラミングという教科があるわけではない。例えば算数という中の、その単元でプログラミング的思考を入れる題材が入るということで、広く評価という面では評価を行うが、いわゆるプログラミング教育だから、プログラミングの評価は何になるということは小学校では無い。中学校では技術科の中に入ってくるので、技術の評価の中に入る。

(種村委員)

今日の新聞で、道立校入試の道教委の方針について、2022年度実施ということで中学校で新中1年が高校受験の時にかなり難しい問題が出るという記事が載っていたが、これに対して何か対応するのか。

(土江田総括指導主事)

私たちも今日新聞で知った。この後文科省から色々なものが出てくると思う。基本的には新しい学習指導要領に関しては、主体的対話的に深い学びを推進していくという事を考えると応用的なことが大事だとなっているので、大きな指針は示されているかと思うが、中学校の高等学校の入試に関しての変更に関しては、まだしっかりとしたものは見えていないので、各校それに向けた取組がこうなされているというところではなく、学習指導要領の変化に伴って、それに向けての取組を行ってきているということであると思う。

(種村委員)

大学入試も変わると思うが、そういうことを見越しての変革なのだろうか。今年あたりは理科の入試が非常に難しく問題文自体が解りにくいし、さらに単なる知識だけでは回答できないという問題になっている。すでに今から道教委あたりでは考えているという気がする。これで中学校1年生が実際に大学入試を見据えた形で中学校の段階でもそれなりの力をつけなければいけない、といった感じがある。おそらく、これから段々そうなるようになっていく気がする。また、今後スピーキングやライティングなどが普通の授業の中で取り入れられる気がするが、どうだろうか。

(土江田総括指導主事)

英語に関しては、ライティングよりはスピーキングや聞く力が、かなり重視されてくると思う。パフォーマンスの評価をしっかりとしなければならないという事が言われてきている。そのあたりを、新学習指導要領に沿ってどんどん変化していかなければならないと思う。

(山口委員)

今の話に絡めて、今まで釧路市内は中学校の数学について、課題があるという状況の話は何回も出ている。ただ、今度の新1年生が高校受験の時には、そのようになっていくという事は、中学校の体質を考えると、自分は数学の先生じゃないから良かった、と思っている先生方も、自分事としてそういう能力が子どもたちに求められるんだというようになったら、全校あげて学校全体で子どもたちに、どんな授業を提供しなければならないか、一致して取り組んでいかなければならないという事になる。そうすると取り方によっては、これでようやく一体となって授業改善に取り組まなければならない、そういう情報を新年度から教育委員会の方から中学校に提供していく、という事も作戦としては考えられる。そういう必要性が出てくる。数学だけの問題ではなくなっている。皆、危機感を持って頑張りましょう。という事はできると思う。

(松尾委員)

全部の小学校、中学校で福祉協力校になっている。福祉協力校の授業として生活科などでやっていると思うが、高齢者の疑似体験、車椅子の介護体験をやっている学校はたくさんあると思う。中身は行ったことがないので分からないが、社協さんがお手伝いに来てくれて車椅子も用意してくれてという事をやっているはずだが、例えば運営協議会の方や学校支援ボランティアなどの参加もあればすごくいいなと思っている。もし無ければ声掛けも必要かと思う。

また、最近、模擬選挙の生活科の授業があって、何度か一緒に行っているが、今まで山花小中学校、昭和小学校、鳥取小学校、江南高校でも今年実施した。中身がすごく面白くて選挙管理委員会の本当に選挙で使う機械、箱から記載台から全部用意して、集計の紙を数えるものを全部子どもたちにやらせる。全体には選挙とはどういうものか、政治とはどういうものなのかという話をして実際に選挙をさせる。毎年、少しずつ増えてきているのかと思う。大きな小学校、中学校は児童会、生徒会で選挙ができるが、小さいところは選挙なしになってきている。だから、選挙の事もよく分からないという子どもたちも増えてきていると思う。

そういうところを是非利用してもらいたい。高校生に関しては、18歳から選挙権があるので、今回はすごくいいタイミングだったのかなと思う。実際に4月に選挙権を持った子がいるはずなので、今回の道議選、知事選、市議選まで、選挙できる子がたくさん居ると思う。江南高校は実際やったが、北陽高校はどうなのかと思っている。選挙がどういうものかということ、やっぱり小さいうちから分かった方が良くと思う。選管の方に問い合わせたら協力してもらえるので、もし何をしたらいいかというようなものがあったら生活科で、是非やってもらいたいと思う。

(土江田総括指導主事)

福祉の体験は、総合的な学習で行っている学校が多く、直接業者でやり取りしているところがあるので、学校支援ボランティア等、いろいろなところに参加してもらえるような形を学校にも投げかけていきたい。模擬選挙に関しては選挙管理委員会ということなので、協力しながらこういう学校でもやってもらいたいという話も教育委員会としても働きかけたいと思う。

(和田北陽高等学校事務長)

報告はしていなかったが、北陽高校では3年前くらいに、1年生を対象に1月の自主学習期間になる前に、選管の出前講座をお願いしている。また、今年4月の道議選、知事選、市議選について選管の方から、是非生徒に期日前投票の事務を手伝ってこないかという話もあり、合計で6名の生徒をお願いしている。

(松尾委員)

最近、期日前投票に大学生や高校生が来て、簡単な仕事だが、仕事するというよりも見るという事の方が大事なことだと思う。